

# 新潟県に災害をもたらした主な気象事例

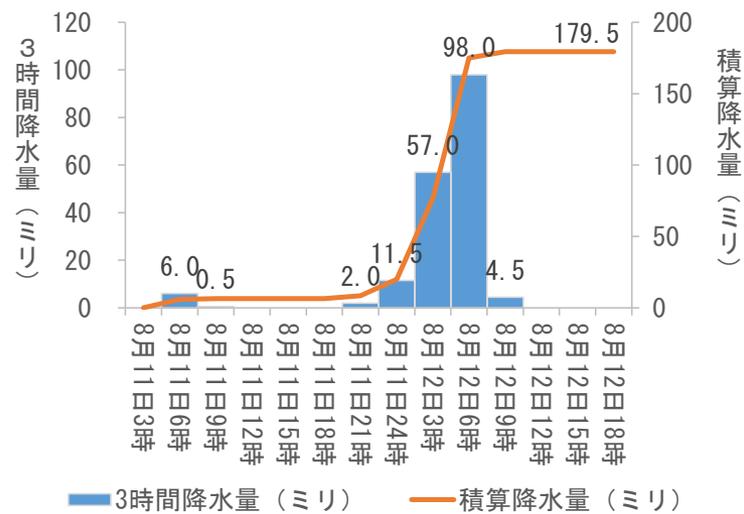
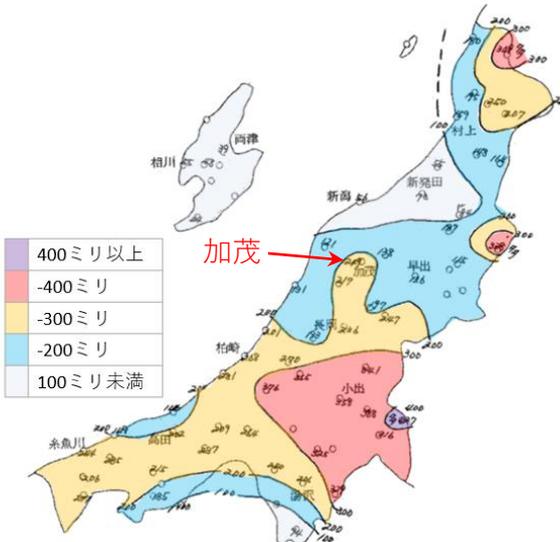
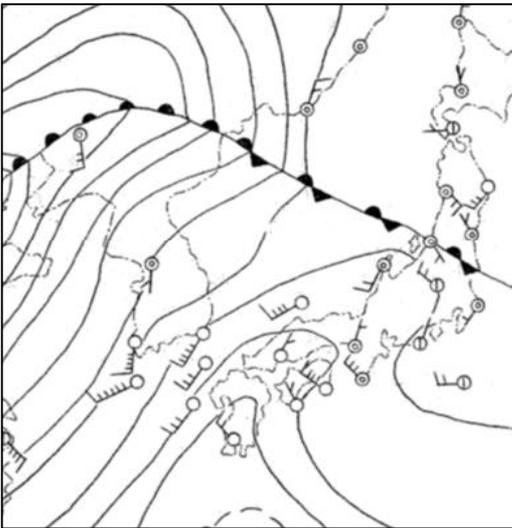
(44年8月水害) 昭和44 (1969) 年8月7日から12日にかけての大雨

## 梅雨明け後に前線が停滞して県内広い範囲で大雨 加茂市では集中豪雨

### 【概要】

昭和44 (1969) 年の北陸地方は、7月16日ごろ梅雨明けしたが、7月末から梅雨のような気圧配置が2週間続き、上空の寒気の影響もあって、新潟県では広い範囲で雨が続いた。北西から南東にのびる前線の南北移動にあわせて大雨の地域が変化し、8月7日から8日にかけては下越と中越の山間部で、8日夜から9日朝にかけては上越で、9日夜から10日朝にかけては中越で大雨となり、各地に大きな被害をもたらした。その後、12日未明から明け方にかけて、中越の加茂市を中心に6時間で150ミリを超える集中豪雨となり、各地で土砂災害が発生、加茂川や下条川が氾濫し市街地を濁流が襲い床上浸水が続出するなどの大水害をもたらした。

一連の大雨により、県内では、死者・行方不明者21人、被害総額502億円となった。  
(被害については、新潟県地域防災計画資料編による)



地上天気図 昭和44年8月12日3時

昭和44年8月7日から12日までの総降水量 (ミリ)

加茂市消防の3時間降水量の推移